国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

２０２４年１月１５日

令和５（2023）年度第５回定例記者会見開催のお知らせ

日時：2024 年１月 18 日（木）10:30～11:30
場所：豊橋技術科学大学　事務局３階大会議室
YouTube：https://youtube.com/live/-8fhnV9hUXs

※同日 11:30～12:00 において、一般社団法人技科大テックブリッジ設立記者会見を
執り行います。多くのご参加をお待ちしております。

＜記者会見項目＞

① 豊橋鬼祭 鬼トラッキングシステム「おにどこ」
2024 年の実施について
【情報・知能工学系 准教授 大村 廉／
建築・都市システム学系 准教授 水谷 晃啓】（別紙１）

② 本学アジア地域初となるダブルディグリー・プログラム協定をインドネシア・
バンドン工科大学と締結
～アジアを牽引する国際的的な指導的技術者の育成～
【情報・知能工学系長・教授 北岡 教英】（別紙２）

③ 自動車研究部 TUT FORMULA
～自動車研究部の活動について～
【機械工学専攻博士前期課程１年 福本 遼太朗」】（別紙３）

④ 安全安心地域共創リサーチセンター防災シンポジウムのご案内
【安全安心地域共創リサーチセンター】（別紙４）

＜本件連絡先＞
総務課広報係　岡崎・高橋
TEL:0532-44-6506　FAX:0532-44-6509

＜別紙１＞

国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

２０２４年１月１５日

豊橋鬼祭 鬼トラッキングシステム「おにどこ」2024 年の実施について

＜概要＞

2024 年 2 月 11 日（日）に実施予定の「おにどこ」についてご紹介します。「おにどこ」では、例年通り豊橋鬼祭「門寄り」における赤鬼位置の表示機能、AR 技術を用いた仮想的な門寄り機能を提供する予定です。おにどこ実行委員会による「おにどこ」の実施は、今年を最後とし、来年以降は鬼祭の一部として継続していく予定です。

＜詳細＞

2018 年豊橋鬼祭から開始した赤鬼・天狗の位置トラッキングシステム「おにどこ」ですが、今年で 7 年目を迎えます。コロナ禍以前の 2020 年には、6,000 名を超える方々（但し、推定値）にご使用いただくとともに、コロナ禍においても、AR 技術を用いた仮想的な「門寄り」を実現して、密を避けつつ鬼祭を楽しんでいただく機能を提供するなどして、地域文化である豊橋鬼祭の保存と振興に寄与してまいりました。今年は、コロナ禍が明けてようやく普段の豊橋鬼祭が再開される見込みとなる中、「おにどこ」を実施いたします。

「おにどこ」の機能としては、昨年までと同様、「門寄り」における赤鬼の現在位置を地図上で可視化する機能、及びパンフレットに記載されたマーカーをスマートホンのカメラで撮影することで、鬼の 3D モデルを仮想的に出限させる機能（「AIR 門寄り」）の提供を予定しています。

なお、これまで「おにどこ」は、豊橋技術科学大学を主体とするおにどこ実行委員会で実施してまいりましたが、このような体勢で実施するのは、今年を最後とする予定です。上記のように「おにどこ」は大変ご好評いただいており、「鬼祭に必要不可欠なアプリ」との声もいただいております。来年以降は、「おにどこ」を正に「豊橋鬼祭の一部」とすべく、安久美神戸神明社や鬼祭保存会のご協力のもと、体勢を整え、鬼祭の一要素として取入れていただき実施する予定でおります。

おにどこホームページ：https://o2doko.com

＜「おにどこ」実施体制＞

主催：おにどこ実行委員会

豊橋技術科学大学　ユビキタスシステム研究室（大村研究室）、
豊橋技術科学大学　建築設計情報学研究室（水谷研究室）、
株式会社ウェブインパクト

協力：安久美神戸神明社、豊橋鬼祭保存会、Code for MIKAWA

本件に関する連絡先
広報担当：総務課広報係　岡崎・高橋
TEL：0532-44-6506　FAX：0532-44-6509

＜別紙２＞

国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

２０２４年１月１５日

本学アジア地域初となるダブルディグリー・プログラム協定を インドネシア・バンドン工科大学と締結

～アジアを牽引する国際的な指導的技術者の育成～

＜概要＞

豊橋技術科学大学は、インドネシア最高峰の工科系大学であるバンドン工科大学と大学院博士前期課程のダブルディグリー・プログラム協定を締結しました。両大学の修了要件を満たすことで、両大学大学院の学位が取得できるダブルディグリー・プログラムを 2024 年度から実施します。本学では、インドネシアからの留学生を受け入れると同時に日本人学生を派遣します。双方向型の連携教育研究プログラムを確立することにより、アジアを牽引する国際的な指導的技術者を育成します。

＜詳細＞

本学とバンドン工科大学は、1995 年に交流協定を締結して以降、活発な学術研究交流を継続してきました。2022 年 3 月、バンドン工科大学から大学院博士前期課程学生を受け入れていた一方向型のツイニング・プログラムが協定期限を迎えたのを契機に、両大学間でダブルディグリー・プログラムの実施について協議を開始し、2023 年 8 月にダブルディグリー・プログラム協定を締結しました。2024 年度から、本学情報・知能工学専攻とバンドン工科大学 Master's Program in Informatics の間でのダブルディグリー・プログラムを開始する予定です。

【プログラムの概要】

本プログラムにおいて、本学の学生は、博士前期課程 1 年次前期を本学、1 年次後期から 2 年次前期までをバンドン工科大学で修学します。その後、2 年次後期を再度本学で修学（4 月入学 3 月修了）します。一方、バンドン工科大学の学生は、1 年次をバンドン工科大学、2 年次から日本に来日し、本学にて修学（10 月入学 9 月修了）します。修学期間中、本学とバンドン工科大学両方の指導教員から指導を受けることにより、国際的な場面での研究活動を経験することができます。両大学の学生は本学で修学した後、英語にて修士論文を執筆し、両校に提出します。各大学にて修了認定されると、それぞれの大学の学位を取得できます。

＜今後の展望＞

2024 年度には、本学情報・知能工学専攻とバンドン工科大学 Master's Program in Informatics の間でのダブルディグリー・プログラムを開始予定です。将来的には、他分野へ拡大することも視野に入れ、両大学の連携を深めていきます。バンドン工科大学はベンチャーの起業も盛んであり、今回、プログラムを開始するバンドン工科大学 School of Electrical Engineering and Informatics にも起業経験のある教員らが在籍しています。そうした教員の下で、学生は新興大国インドネシアにおけるアントレプレナーシップを身につけることも期待できます。また、日本及び現地企業をはじめ、特に東三河、遠州地域は、歴史的にもインドネシアと深いつながり・交流があり、今後、こうした地域・産業界との連携による本プログラムの発展を期待しています。

本件に関する連絡先
広報担当：総務課広報係　岡崎・高橋
TEL：0532-44-6506　FAX：0532-44-6509

＜別紙３＞

国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

２０２４年１月１５日

自動車研究部 TUT FORMULA

～ 自動車研究部の活動について ～

●１月 18 日（木）の定例記者会見にて、自動車研究部の活動についてご紹介します。

＜概要＞

私たち自動車研究部は、毎年開催される学生フォーミュラ日本大会に参戦しています。

学生フォーミュラ日本大会は、公益社団法人 自動車技術会が主催する大会です。この大会では学生がフォーミュラスタイルのレーシングカーを企画・設計・製作し、ものづくりの総合力を競います。

私たちの主たる活動目的は、将来の日本社会を担うエンジニアの育成です。

「技術に触れ、肌で感じる。」を基本理念に掲げ、代々新しい技術に挑戦し、2008 年に日本チーム初のカーボンモノコック採用、2018 年からカーボンモノコックでの EV クラス参戦など様々な実績を残しております。車輌の開発・設計・製作は学生自らが行っており、活動に必要な資金や、学生だけでは製作できない部品の外注なども応援企業の力をお借りしつつ、学生主導のもと、活動しています。

2024 年の大会は、9 月 9 日（月）～14 日（土）Aichi Sky Expo（愛知国際展示場）で行われます。

活動の様子を X(旧 Twitter)や Instagram, HP のブログに掲載中

詳細は下記の QR コードから

Instagram	X(旧Twitter)	HP
@tut_formula	@tut_formula	http://www.tut-f.com/

お問い合わせ先：自動車研究部　info@tut-f.com

＜別紙４＞

豊橋技術科学大学
安全安心地域共創リサーチセンター防災シンポジウム

地震防災のキーワード
ー耐震化と情報化ー

関東大震災から 100 年を経て、防災に関する様々な変化が見られます。特に、都市や建物の耐震化が進み、また、インターネットの普及により防災分野の情報化が進展しました。そこで、耐震化と情報化をキーワードに、それぞれの分野の専門家からお話を伺い、今後の地震防災について考えます。

日　時：2024 年 2 月 23 日［金（祝）］13:00 ▶ 16:30

定　員：会場 200 名 ＋ オンライン 100 名（※オンライン参加は日本建築学会会員のみ）

参加費：無料［事前申込制］※左の QR コードよりお申込み下さい

建築 CPD
対象プログラム

場　所：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース
愛知県豊橋市西小田原町 123 番地　豊橋駅南口から徒歩 5 分

お問合せ：豊橋技術科学大学　安全安心地域共創リサーチセンター
Email：carm@office.tut.ac.jp　Tel：0532-81-5157

12:30	開場
13:00	開会挨拶　寺嶋 一彦　豊橋技術科学大学長 趣旨説明　齊藤 大樹　豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター長
13:15	基調講演 1　福和 伸夫　名古屋大学名誉教授 耐震化　温故知新で 南海トラフ地震を考える 基調講演 2　臼田 裕一郎　防災科学技術研究所 総合防災情報センター長 情報化　DX による これからの防災
15:15	休憩
15:30	パネルディスカッション
16:30	閉会挨拶　能島 暢呂　岐阜大学 地域減災研究センター長

主催　豊橋技術科学大学
安全安心地域共創リサーチセンター

共催　日本建築学会災害委員会
東海圏減災研究コンソーシアム

後援　国土交通省中部地方整備局｜豊橋市｜豊川市｜田原市｜蒲郡市｜新城市｜東三河広域経済連合会｜豊橋市教育委員会｜㈱サイエンス・クリエイト｜東三建設業協会｜三河港振興会蒲郡地区委員会防災部会｜御津臨海企業懇話会｜明海地区防災連絡協議会｜神野地区防災自治会｜田原臨海企業懇話会｜自然災害研究協議会中部地区部会

＜別紙５＞

令和５（2023）年度　定例記者会見日程

第１回	５月１７日（水）	１０：３０～	事務局３階大会議室
中　止	~~６月２２日（木）~~	~~１０：３０～~~	~~事務局３階大会議室~~
第２回	８月１０日（木）	１０：３０～	事務局３階大会議室
第３回	９月１４日（木）	１０：３０～	事務局３階大会議室
中　止	~~１０月２６日（木）~~	~~１０：３０～~~	~~事務局３階大会議室~~
第４回	１２月１４日（木）	１０：３０～	事務局３階大会議室
第５回	１月１８日（木）	１０：３０～	事務局３階大会議室
第６回	２月２２日（木）	１０：３０～	事務局３階大会議室

コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、オンラインにて開催することもあります。

定例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以　上